

精神分析は幼児期の経験を重視するが、それにもかかわらず、子どもを対象とした精神分析の書物は少ない。本書は、精神分析の元祖であるジグムンド・フロイドの娘であるアンナ・フロイドによって書かれた児童の精神分析についての論文を集めたものである。アンナ・フロイドは児童分析の分野の開拓者であり、実際の児童分析の経験をも多く積んでいるのみでなく、教育にも大きな関心をよせている。本書の中にも児童分析と教育との関係についての章があり、また訳者北見芳雄氏の「教育と精神分析」という解説もつけ加えられている。幼児教育にたずさわる方々も、本書によって教えられるところは多いと思う。

本書の構成について紹介すると、第一に児童の精神分析技法入門があり、児童分析とは何かということ、児童分析の方法などの説明があり、児童分析と教育の関係についての項がとくに設

けられている。第二に児童分析の理論についてのわかりやすい説明があり、第三に児童分析の適用に関する諸問題として一般に誤解されやすい諸点について論じてある。「児童分析に寄せられた性的偏見について」「児童分析は不道德な結果をまねくという恐れについて」「児童分

アンナ・フロイド著

北見芳雄・佐藤紀子訳

児 童 分 析

——教育と精神分析療法入門

析の適用範囲についての論争」などの問題がとりあげられている。そしてさらに児童神経症の判定についての論説がある。最後に、訳者の適切なわかりやすい、ていねいな解説があるので、読者にたいへん便利である。第一の解説は佐藤紀子氏による「精神分析と児童分析」で

あり、精神分析学についての説明および、精神分析学の観点よりみた児童発達と児童分析について述べられている。第二の解説は北見芳雄氏の「教育と精神分析」で、教育原理、教育技術、教育治療の三つをとりあげて、それぞれに対する精神分析の貢献について論じてある。

児童分析が実際に行なわれるのは、遊戯療法などのような遊びを通してなされることが多い。幼児教育の実際にたずさわる方々が、幼児の遊びを理解する上にも児童分析の理解は役立つであろう。そして、幼児と日常接してゆく上にも、児童分析の知識は役立つと思う。たんに児童分析の専門家のみでなく、ひろく、教育の実践家に読んでもらいたい書物である。訳もやさしくよみやすい。

(誠信書房 四五〇円)